

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 81人

② 算数 81人

5 留意事項

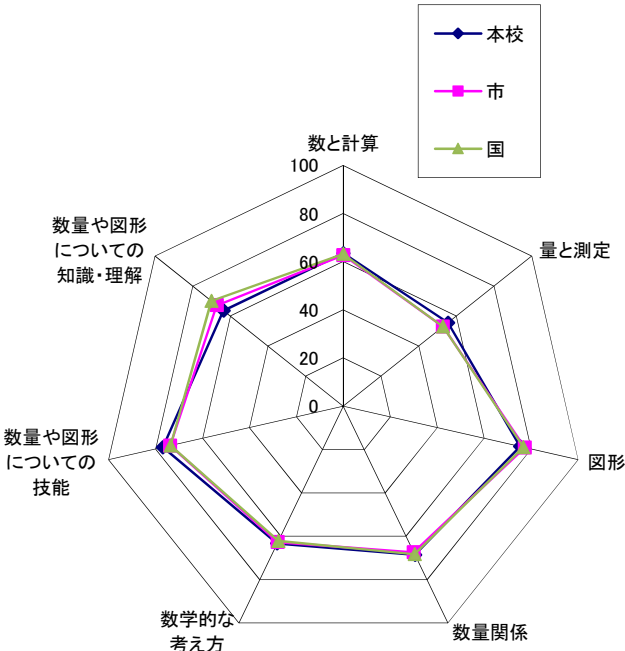
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	63.5	62.7	63.2
	量と測定	55.6	52.9	52.9
	図形	75.3	77.3	76.7
	数量関係	68.6	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	63.3	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	76.9	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	63.6	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

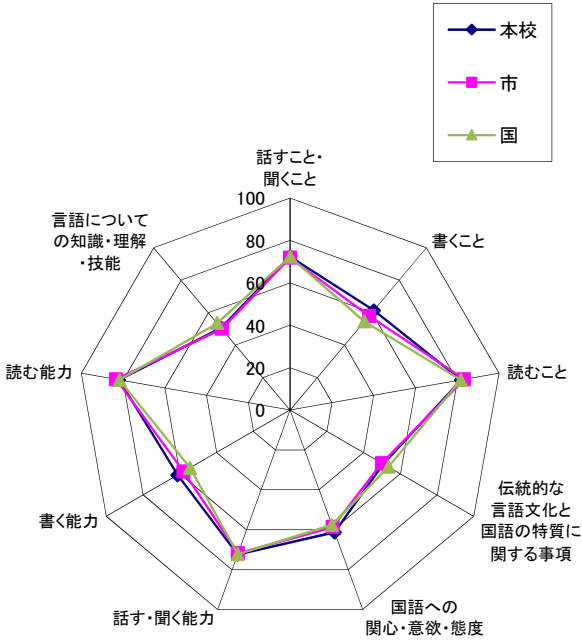
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、数と計算では63.5%で市の平均正答率62.7%より0.8ポイント高い。 ○示された計算の仕方を解釈し、計算しやすい式にすることができた。 ●示された場面を理解し、複数の数量から必要な数量を選び、立式することを苦手としている。	・必要な情報を選び立式できるようにするために、様々な場面設定の問題に取り組ませるとともに、個の力に応じて習熟度別学習を入れていく。
量と測定	○平均正答率は、量と測定では55.6%と、市の平均正答率52.9%より2.7ポイント高い。 ○二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を使って説明することができた。 ●場面の状況から単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断することが難しい。	・生活体験に結び付けながら、単位量当たりの大きさを測定する問題を積極的に取り入れる。 ・数量の関係を見出して考察し、数学的に表現することができるようにする指導の充実を図る。
図形	●平均正答率は、図形では75.3%で市の平均正答率75.9%より0.6ポイント低い。 ○向かい合った一組の辺が平行な四角形を台形ということを理解している。 ●図形の性質や構成要素に着目して図形を理解することを苦手としている児童が見られた。	・図形の構成要素である辺や角の大きさなどに着目して図形を捉えたり、合成や分解など、図形の構成についての見方を働かせ、複数の図形を組み合わせて面積を求めたりできるように、具体物を操作する活動を多く取り入れたり、自分の考えを根拠を明確にして筋道立てて説明したりする機会を増やす。
数量関係	○平均正答率は、数量関係では68.6%と、市の平均正答率67.4%より1.2ポイント高い。 ○資料の特徴や傾向を読み取ることを得意としていることがうかがえる。 ●示された除法の式の意味を誤って捉えている児童が多く見られた。	・多くの情報の中から必要な数量を見出すことができるようにするために、既習事項である割り算の性質や単位量当たりの大きさをもとにして考える機会を増やし、繰り返し練習問題に取り組ませ、習熟をはかる。

宇都宮市立清原南小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	72.4	71.8	72.3
	書くこと	61.3	58.0	54.5
	読むこと	81.9	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	50.6	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	61.3	58.7	57.6
	話す・聞く能力	72.4	71.8	72.3
	書く能力	61.3	58.0	54.5
	読む能力	81.9	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	50.6	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率が72.4%と、市の平均正答率の71.8%と市の平均正答率より0.6ポイント上回っている。 ○話し手の意図を捉えながら聞き自分の考えをまとめることができている。 ●目的に応じて質問を工夫することに苦手である。	・分かりやすく伝えるために、相手に質問の意図が正しく伝わるかどうかという観点で言葉を考え、言い換えるなどして、友達と相互に吟味し合う活動を取り入れる。 ・各教科や学級活動等を通して、グループで話し合ったことをもとに、考えの共通点や相違点を整理しながら、メモを活用した話し合いの場を意図的に設定していく。
書くこと	○平均正答率が61.3%と、市の平均正答率の58.0%と市の平均正答率より3.3ポイント上回っている。 ○図表やグラフから分かったことを目的に合わせて適切にまとめることができる。 ●目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にしてまとめて書くことが難しい。	・自分の考えを明確にしてまとめて書いたり、考えたりする場面を意図的に設定する。 ・分かりやすい文章を書くために、相手に伝わるかどうかという観点で再度検討したり、友達と相互に吟味し合ったりするなどの活動を取り入れる。
読むこと	●平均正答率が81.9%と、市の平均正答率の83.3%と市の平均正答率より1.4ポイント下回っている。 ○目的に応じて本や文章全体の内容を捉えて、必要な部分を適切に選ぶことができる。 ●目的に応じて文章の内容を的確におさえ、自分の考えを明確にしながら読む力が不十分であった。	・日常の読書活動においても、優れた叙述に着目して読んだり、感想の交流をしたりし、国語での学びを生かすことができるようにする。 ・目的に合わせて書かれている文章に数多く触れさせ、書き手の意図を理解しながら読み取る練習をする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率が50.6%と、市の平均正答率の50.0%と市の平均正答率より0.6ポイント上回っている。 ●文章の意味に合わせて漢字を適切に使うことが苦手である。 ●文と文の意味の繋がりを理解しながら、適切な接続語を使うことが苦手である。	・国語辞典を使って、慣用語を調べる活動を取り入れたら、日常生活で用いるようにしたりする。 ・漢字の学習では、新出漢字だけでなく小学校で学習する常用漢字を復習する機会をもつようにする。 ・既習の漢字を使い、短文を作文し、日常で使えるようにしていく。

宇都宮市立清原南小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の決まりを守っていますか」については肯定割合96.3%と県の95%、全国92.3%より上回っており、本校の児童の規範意識が高いことが伺える。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。」については98.8%と県の97.8%、全国97.1%より上回り、いじめは許されないということへの意識が高い。

○「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」に関する質問においては、1時間以上2時間以下が54.3%であるなど、県の割合より高い傾向が見られた。まだ十分とは言えないが、継続的に指導を続けていきたい。

○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」の項目では、肯定割合が全国より高い。地域の活動が盛んであり、児童と地域の繋がりが深いことが伺える。

●「家の人と学校の出来事について話をする」についての肯定割合が74.1%で、県の77.9%、全国77.4%より低いことから家庭での対話の時間が少ない傾向にある。そのため、家庭でのコミュニケーションを図れるよう啓蒙を行う。

●「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか」の質問においては、肯定割合が約70%あり、県や全国より低い。そのため、総合的な学習の時間や各教科においてコンピュータなどのICTを活用し、授業の充実を図りたい。

宇都宮市立清原南小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
国語における基本的な知識・理解・技能の習得	4月、7月の授業参観において、家庭への啓発を図るとともに、自主学習やドリルの有効活用をしている。 文章の読み取りに学び合いの時間を取り入れ、自分の考えを表現し、伝え合う時間を作っている。	話すこと・聞くこと、書くこと、言語に関しては、それぞれ市の平均を上回っている。文章の読み取りは市の平均よりも低い。
算数における単元や子どもの実態に合わせた少人数指導や習熟別学習の充実	個に応じた対応と集団の特性を効果的に生かす学習形態を工夫し、計画的、継続的に指導にあたっている。	算数は全国平均を上回っている。算数の学習への意欲は良い状況にあり、習熟度別や少人数による指導の成果と言える。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

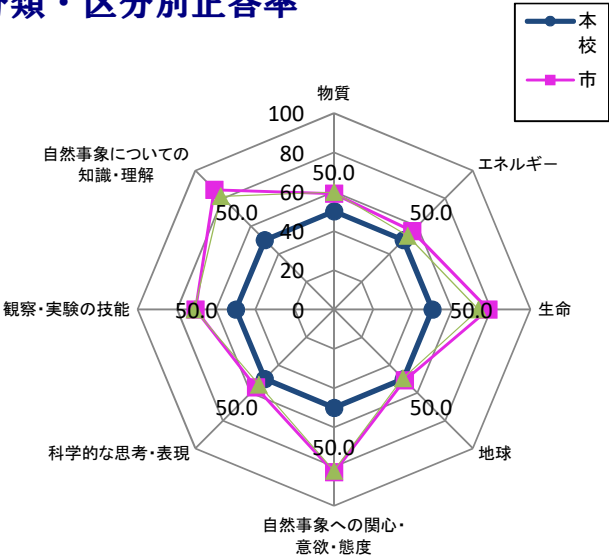
調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、国語の読むことについての平均が低いことが分かる。また、算数の数量や図形についての知識理解力がついていないことが分かった。	・定着を図る学習の充実 ・授業の中で図形を捉えやすくするための板書の工夫 ・考えや根拠を明確にして伝え合う機会を増やす	・復習の機会を学年共通で設けると同時に、家庭学習への啓発や復習方法を提示していく。 ・図形においては、具体物を操作したり、示したりして複数の図形を組み合わせた図形の構成にも着目できるように板書等でも工夫していく。

宇都宮市立〇〇〇小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	50.0	59.0	59.8
	エネルギー	50.0	56.4	53.1
	生命	50.0	78.6	73.6
	地球	50.0	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	50.0	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	50.0	56.1	54.1
	観察・実験の技能	50.0	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	50.0	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
今後の指導の重点

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	○ ●	
エネルギー		
生命		
地球		